

7/15
(木)

夏の風物詩、満開 込められた思い

町内に夏の風物詩ヒマワリが咲いています。

唐隈集落では、地域の景観づくりと畑の緑肥に活用しようと住民らが2年前からヒマワリを植えはじめ、今年は約8畝の畑に黄色い大輪が咲き誇りました。

唐隈自治公民館の塚田和昭館長は「たくさんの人に楽しんでいただけた。来年以降も引き続き楽しんでもらえるよう、試行錯誤しながらやっていきたい」と話しました。

見頃を迎えたヒマワリを一目見ようと多くのかたがカメラを片手に訪れ、海を背景に写真を撮っていました。

震災復興の象徴としてヒマワリを植える活動も行われています。



集落内の畑一面に咲くヒマワリ



元気に咲く「はるかのひまわり」



左から山門野郵便局の山迫局長と職員の東舟道さん

町内郵便局では、阪神・淡路大震災の復興のシンボル「はるかのひまわり」の種を植える活動に2年前から取り組んでいて、山門野郵便局では、花から取った種を窓口で配る活動も行っています。

同郵便局の東舟道貴子さん(出水市)は「この活動は防災、人の命、つながりをテーマに全国的に行われている。近年、災害発生が増えているので、これを機に防災意識を持っていただけたら」と話しました。

活動に賛同した道の駅黒の瀬戸だんだん市場でも昨年から植えられ、町の玄関口にはたくさんのヒマワリが元気いっぱい咲いていました。

7/21
(水)

令和3年度戦没者追悼式 決して、忘れてはならない



戦没者に献花する参列者

7月21日、令和3年度長島町戦没者追悼式が町開発総合センターで執り行われました。新型コロナウイルス感染症防止のため、規模を縮小して行われた式には、町長や町議会議長、遺族会会長をはじめ、遺族のかたなど約30名が参列しました。

式では、戦没者に対して黙とうを行い、追悼のことばの後、献花が行われ、戦争を知る人が少なくなり、次の世代に語り継いでいくことが重要だと述べられました。

遺族会会長の浜畑順一さん(小浜)は「私たちが平和な日々を送っている喜びの陰に、尊い犠牲があることを決して忘れてはならない。常に感謝し生きていくことが私たちの務めだ」と語りました。